



三井 高潔

口 繪

〔解説〕

三井家の連家で松坂居住の松坂北家（現永坂町三井家）第六代当主高潔は、文政二年（一八一九）三月、本家の北三井家七代高就庶出として京都に生まれ、三歳で松坂北家高延の養子に入った。一九歳となった天保八年（一八三七）八月、紀州藩松坂役所から大年寄役を命ぜられ、同年一〇月には家督を継いで宗十郎と改名した。以来大年寄役また銀札摺立等紀州藩の御用を勤めること二〇余年の功勞を賞されて、万延元年（一八六〇）同藩の士分に列せられ、平日帯刀の身分となったが、京都の三井大元方からは家則に反するとして、別宅隠居護身の処遇を受けた。しかし表向家督を養男高猷に譲り、名も篤二郎と改めはしたが別宅もせず、帯刀して藩の御用を続けていた。高潔は、どちらかという三井の店より紀州藩との付き合いを専らにしたという。

明治を迎え会計官御用を勤める実兄高福ら同苗四人に苗字帯刀が許されて、高潔の謹慎も解かれ、明治三年（一八七〇）以後は大元方の一員となって松坂を出、三井全体を取締る立場になるのである。文久二年（一八六二）に莫大な焦付きを出した横浜店の整理に当たるとともに、その後の三井銀行横浜分店に元締として精勤し、明治一四年（一八八一）一月、一生を横浜にて終えた。享年六三歳、法名桃華庵錦江宗雲居士。高潔の生前の功績を誉えて田村利七等多くの使用人によって建てられた横浜久保山の記念碑「錦江翁碑」建立之主意書には、「公ノ職ニ在ル齡七十六ヲ過ルト雖モ夙夜勉勵一日モ惰ラス、能ク其職ヲ尽セリト謂フベシ、其ノ人トナリ寛仁大度、苟モ事變ニ遇フト雖モ依然トシテ驚カス、事ヲ所置スル裁決流ル、ガ如シ、能ク衆員ノ諫言ヲ入レ、衆ト共ニ事ヲ議ス、故ニ衆皆ナ公ヲ載クコト恰モ赤子ノ慈母ヲ恋フガ如シ」とあり、人物がわかう。

口繪写真は、明治四、五年位であろうか、高潔五三、四歳頃の姿と思われる。写真で見る限りでは、華奢な印象があるが、平素より相撲を始め、弓馬劍槍など武芸を好んだという。半面身体は壯建とはいいい難く、常に弱かつたとも言われている。

なお、本号史料紹介「白塚喬太郎談話速記」に高潔関連記事があるので参照されたい。

（樋口知子）